

前回は、急に「特別支援就学奨励費」を申請するよう言われた藤ヶ谷さんが、市教委に話を聞きに行き、それでもどうしてもモヤモヤしているところまでの報告でした。

“奨励”なんてしてないですから！その2

春日部市 藤ヶ谷

今回なぜ私がモヤモヤしたのかについてお話ししたいと思います。

郁美は義務教育9年間を学区の学校の普通級へ通いました。たくさんのお友だちや先生方にも恵まれ、楽しい学校生活だったと思います。しかし、親の私は大変でした。特に小学校では何かと付き添いを要求されてきましたから。低学年のころは給食と昼休み、その後も校外学習、林間学校、修学旅行、そして毎度のプール学習…。私が学校へ行くことでお友達と親しくなったり、担任以外の先生方とも顔見知りになったり、そういうことで娘の学校生活が、よりスムーズに送れたことは確かだったと思います。しかし娘と私の間はこじれることもあり、付き添いすぎたかな…と反省したこともあります。

問題は今も「付き添い」の悩みが私の周りでも後を絶たないことです。私は家と学校が近いこともあり付き添えましたが、どうしても付き添えない！あるいは付き添いを頑張り過ぎて疲れてしまったというお母さんたちのお話を聞いていると、決して当たり前にはいけないと強く訴えたい。確認しますが、特別支援教育は支援学校や支援学級だけでなく、普通級における支援も含むはずですが、にもかかわらず、なぜこんなに親の付き添いが要求されるのか!?もちろん介助（支援）員の制度もきちんとしてほしいけれど、まず一番大切なのは障害のある子供も無い子供も学校全体で見守り、対応してほしいということです。なのに現状はますます細かく分けられていっています。

こうした問題を置き去りにしたままで支給される「奨励費」っていったい何なんでしょう？たとえば「就学援助費」はお金の問題をお金で支援する制度ですから、わかります。また「特別児童扶養手当」などの支援は“福祉”の制度ですからわかります。うちありがたく利用させていただいています。しかし「奨励費」は障害を理由に“教育”がお金を出すというものです。しかも市の内容は障害のある子も無い子も同じようにかかる費用ばかりです。“教育”が本当にしなければならぬのはこんなことではないはずです。“教育”にお金を使ってください。以上のことを含め、今後のより良い「改正」に向けて、さらに子供たちの「学び」を考えていくうえでの問題提起として、私は「奨励費」を辞退させていただきました。また、引き続きこの事について考えていきたいと思いません。

ミニ TOKO おしゃべり会でこんなこと、あんなこと、おしゃべりしましょう!!

毎月第2金曜日(2/14、3/14 予定) オエヴィスの居間にて。

連絡先 中山/090-2202-5271